

令和4年2月1日

岩倉市議会議長
伊藤 隆信 様

総務・産業建設常任委員会
委員長 片岡 健一郎

総務・産業建設常任委員会行政視察報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

1. 実施日 令和4年2月1日（火）
2. 視察先 静岡県磐田市（オンラインによる）
3. 出席人数及び氏名

7名	片岡 健一郎	鬼頭 博和
	梅 村 均	水野 忠三
	梶 谷 規子	
	黒 川 武	
	堀 巖	

4. 復命事項
別紙のとおり

以上

総務・産業建設常任委員会視察報告書

視察日：2022年2月1日（火）午前10時～11時30分*オンラインによる

視察先及び視察項目：静岡県磐田市「食品ロス削減の取組について」

視察参加者： 委員長 片岡健一郎

副委員長 梅村均

委員 榎谷規子 黒川武 鬼頭博和 堀巖 水野忠三

視察内容：以下の通り

【磐田市対応者及び説明者】

ごみ対策課

議会事務局

【説明内容】《食品ロス削減に向けた取組について》

(主な説明)

- ・令和3年6月14日にゼロカーボンシティを市長が表明した。
- ・ゼロカーボンシティに向けた取組みとして、ごみ減量・リサイクルの推進に取り組む。
- ・新たな食品ロスとプラごみ削減に向けた協定を結んだ。小売事業者、市民団体行政の三者連携による統一的な取組を実施するための締結である。
- ・協定を締結した上で、啓発グッズの店舗への掲示やキャンペーン実施等の事業を実施。
- ・値引きシールキャンペーンはその一つである。
- ・プラスチック製品（ペットボトル、トレイ等）の回収へのポイントの付与、資源ごみの店頭回収を推進した。このポイント付与は珍しい取組である。
- ・レジ袋削減については、その協定を締結することで削減に取り組んだ。マイバックの呼びかけも行い、協力店での辞退率は9割を超えるなど成果を上げた。
- ・食品ロス削減月間に併せた普及啓発の実施。
- ・紙製オリジナルクリアファイルを作成した。

(事前質問に対する回答説明)

1. 値引きシールを集めて食品ロス削減キャンペーンについて

Q 1. 事業概要は

A 1. スーパーマーケット等の小売店で消費期限・賞味期限切れによって廃棄される食品ロスを減らすためのキャンペーン、購入した商品に貼ってある値引きシールを集め応募するとエコグッズがあたる内容。消費者に対し、消費期限・賞味期限の近い商品の購入を促す。事業者の協力を得ながら、市在住の皆様の協力をお願いしている協働事業。

Q 2. 事業に携わっている職員の人数は

A 2. ごみ対策課職員 2 名が担当。Q & A 作成など課内で対応することもあり。ポスター、パンフレット作成・配達、商品調達・発送、アンケートなど印刷会社に委託した。

Q 3. 応募の結果は

A 3. 目標を 2,000 件に設定したが、4,239 件の応募があった。一人何回でも応募可能。

Q 4. どのように参加店を募集したか

A 4. 食品取扱業者 13 社中 12 社が参加。協定を結んでいる店舗に依頼した。広く公募のような募集はしていない。公募は今後の課題としている。

Q 5. コンビニエンスストアが参加店に入っていない理由は

A 5. 協定を結んだ事業者のみを対象としたため。セブンイレブンとは、別の協定があり、ポップは設置してもらった。コンビニへの展開は今後の課題である。

Q 6. 参加店舗に実施してもらうことは何か

A 6. できるだけ負担がないように取り組んだ。ポップの設置や応募はがきパンフレットの配布、設置などの P R をお願いした。

Q 7. この事業の市民に対する周知方法はどのような手法か

A 7. 新聞、市広報やホームページ、店舗・公共施設へのパンフレット設置 (8,000 部)、図書館でミニイベント開催 (読み聞かせや削減クイズ) な

ど。

Q 8. 参加店の反応は

A 8. 2月のアンケート調査で確認予定であるが、協力依頼時はスムーズに行えた。

Q 9. 事業予算（決算は）

A 9. 委託料で約 47 万円。

Q 10. 賞品はどのようなものか

A 10. しっぺいエコバッグやキーホルダー。合併 15 周年記念事業の「しっぺいグッズデザイン公募」で優秀賞の作品が商品化されたもの。人気があると感じている。賞品は一人一つまでとしている。

Q 11. 課題・問題点はどうか

A 11. 更なる啓発活動が必要である。

恥ずかしさがあったが値引きシールのある商品を取りやすくなったなどの声あり。

2. 食べきりレシピをご活用くださいについて

Q 1. 事業概要と結果は

A 1. 食品ロスについての説明や「食品ロスゼロ・クッキング教室」で調理した普段は捨ててしまうような食材を使用したレシピを掲載して活用を促している。冊子も作成。

Q 2. 事業予算（決算）は

A 2. 約 3,000 円と紙代。印刷は庁内の高速プリンターで行った。

クッキング教室 7,000 円（保険料など）

Q 3. スーパーなど生鮮食品の売り場にレシピを置いているか

A 3. 軽トラ市や学園祭、庁舎に置いた。またクックパッドいわた等に掲載した。

3. アイデアコンテストについて

Q 1. 事業概要、審査基準、結果は

A 1. 事業概要：関心を持ち実践するきっかけとなるよう食品ロスゼロを目指すアイデアを募集し、優秀作品には、表彰状と副賞を贈呈した。令和2年5月～8月まで実施
審査基準：審議会とごみ対策課で審査。基準は a：削減効果 b：手軽さ c：継続性で地域制や独自性も考慮した。
結果：5月～8月の約3ヶ月の募集で応募総数は41点

Q 2. 事業予算（決算）は

A 2. 約1万円。職員直筆の表彰状やレジカゴバッグなど。

Q 3. 創意工夫した点は

A 3. 「誰でもできるで賞」などユニークな表彰とした。この事業を値引きシールキャンペーンにつなげた。

Q 4. 他にも市民参加の取組を行っているか。また今後実施の予定はあるか。

A 4. 学校との取組は実施していない。今後も未定。値引きシールキャンペーンは来年度も実施予定。

Q 5. 令和3年7月から「手前から取ってもらえるとうれしっぺい」の掲示を食品取扱事業者13社でスタートしたが、その後事業者は増えているか。また、事業者や市民の反応はどうか

A 5. 14社、33店舗になった。親しみのあるものにすることで良い反応であったと思う。

Q 6. 食品ロス削減事業に向けた庁内の体制はどのようなか

A 6. この事業はごみ対策課単独で実施している。関係課（9課）とは情報共有を行っている。（産業政策課、経済観光課、農林水産課、福祉課、健康増進課、教育総務課、学校給食課、環境課、危機管理課）情報共有とは、国からの通知（情報）を他課にも回すなどしている。事業別に必要なものは必要な部署へ。

Q 7. 食品ロス削減の目的数値は

A 7. 令和2年度の可燃ごみ組成調査結果から1,680tの食品ロスがある

ことが分かったので、2030年に20%減の1,340tを目標値とした。
組成調査とは、いくつかのごみ集積場から400袋を抽出し中身を調査した
もの。3年に1回実施している。

Q8. 市の施設での食品ロス削減の取組はあるか

A8. 給食を分けきろう、食べきろう月間を実施。給食の量は子どもたち
に合わせ計算され、食べきってもらいたい量となっている。

Q9. 宴会や食事会での3010運動は実施しているか

A9. コロナ禍で実施していない。見合わせている。

Q10. SDGSの2 飢餓をゼロに及び12つくる責任・つかう責任に関連付
けた食品ロス削減の取組を進めているか。協働で推進している事業はある
か

A10. フードドライブ、ばら売り・量り売り、規格外の販売など推進し
ている。協働としては、値引きシールキャンペーン事業がそれにあたる。

(その他) 当日の質疑応答から

- ・分母については、市内にある食品取扱業者のほぼ全社と協定を結んでいる。コ
ンビニは今後の検討課題。
- ・プレゼントがあたる値引きシールキャンペーンだが、このキャンペーンが終わ
ると、消費期限の近い商品を購入しなくなるのではないかという心配につい
ては、来年度も継続していく予定であるし、このキャンペーンにおいて食品ロ
ス削減への意識が芽生えていくことが必要であり実施を決めた。

【所感】

コロナ禍において現地を訪問しての視察が叶わない中、オンラインでの視
察を申し込んだところ快く受けていただき、委員会として初めてのオンライ
ン視察を実施しました。SDGsに向けた取組み広がる中、環境問題は待った
なしの状況にもあり、行政としても積極的に役割を果たす必要があります。

今回の視察では、本市において食品ロス削減に向けた事業を充実させるため、
また大々的に市全体でその取組みができるよう提案するために、磐田市の先進
事例を学ばせていただく機会となりました。値引きシールキャンペーン事業を

はじめ、いくつかの具体的な事業について学び、その業務量、職員への負荷、予算額、事業の進め方、市民や事業者の反応など確認することができました。特に、食品関連の事業者等と協定を結んでおりましたが、事前にその協定を結んでいたことが事業を推進するための大きなポイントになることを感じました。今回視察した内容を3月定例議会における委員会代表質問にも活かし、本市における環境問題に対する意識啓発促進や食品ロス削減への取組が進むよう委員会の役割を果たしていきたいと考えております。